



2014年・夏  
県機関版

賢く節電♪ Challenge マイナス12%!  
節電・省エネアクションメニュー

## 重点アクション



不要な照明の消灯の徹底

適正な冷房の運転により室温28℃を徹底

パソコンのディスプレイの明るさを適切に調節



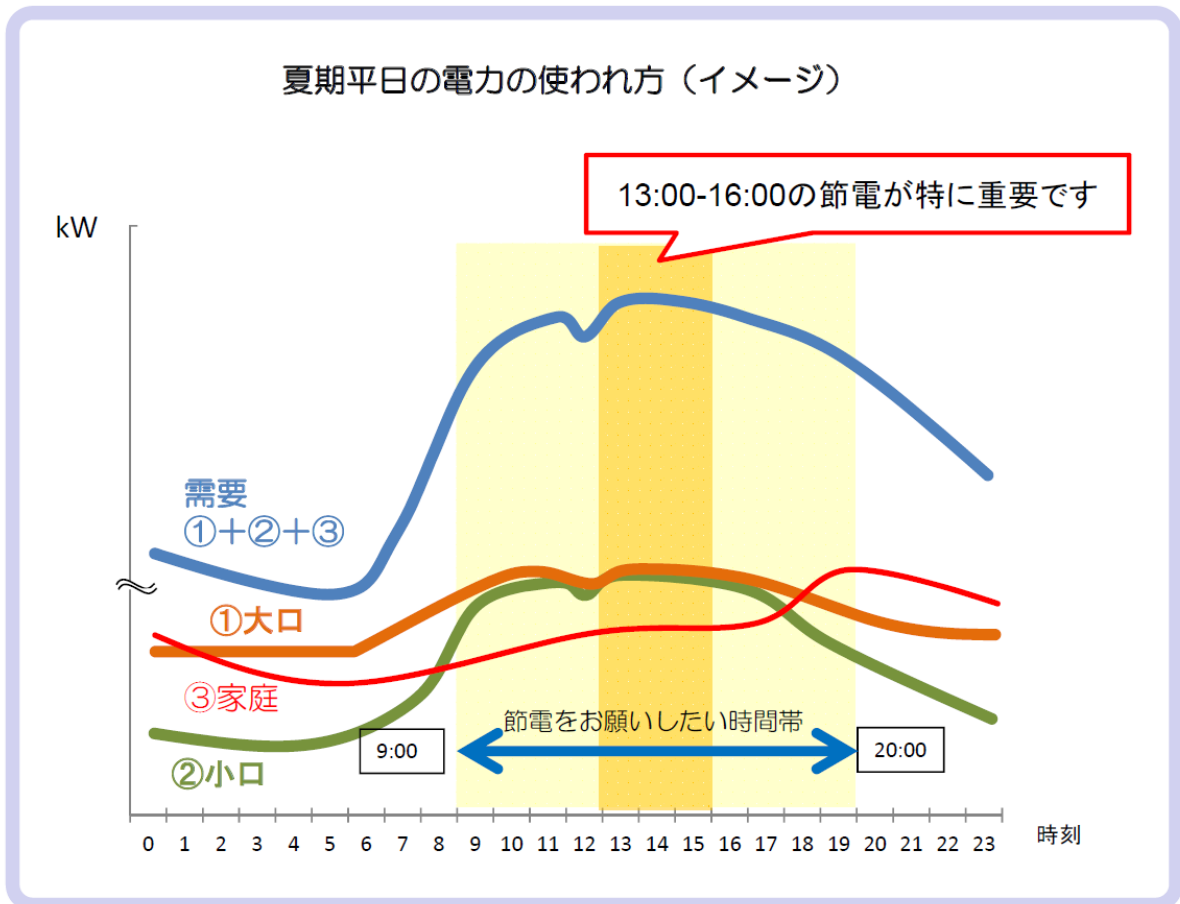
節電対策メニュー		効果をも高める取組など	節減効果
照 明	不要時・不要場所の照明の消灯 適切な照度の設定 (例：事務室 500ルクス程度)	○採光を利用し、窓際照明の消灯 ○使用していない場所の消灯（会議室、廊下、コピー室等） ○昼休みの完全消灯 ○照明スイッチの見える化（スイッチ毎の照明箇所を明示） ○廊下等共有部分の照明の間引き（半分程度）	3%カット  13%カット
	省エネ機器等の導入	○従来型蛍光灯を高効率蛍光灯やLED照明に交換 (従来型蛍光灯 ⇒ Hf 蛍光灯又は直管型 LED 照明) ○照明用人体センサー、プルスイッチの導入	設備毎 ～40%カット
空 調	適正冷房による室温28℃の徹底	○室内CO <sub>2</sub> 濃度の基準範囲内で換気ファンの停止 ○不必要エリア（会議室等）のエアコンの停止 ○緑のカーテン、すだれ、ブラインドの活用 ○給排気ファンの風量の調整（倉庫・機械室等）	5%カット 2%カット 3%カット
OA 機器等	ディスプレイの明るさを調整 (輝度を40%に設定) 約23%カット	○OA機器を省エネモードに設定。長時間席を離れるときは、電源を切るか、スタンバイモードに ○退庁時の電源OFF、プラグ抜きを徹底 ○省電力OA機器（パソコン、コピー機）の導入	3%カット
そ の 他	動力 コンセント	○エレベータの運転台数の制限（職員の原則階段使用の徹底） ○電気ポットの使用停止、冷蔵庫の設定温度「弱」又は停止 ○温水洗浄便座等の温度調整 ○自動ドアの開放（未空調時）	+ α
	デマンド監視装置の導入・活用 取組状況の見える化	○警報発生時に予め決めておいた節電対策を実施し、最大電力を抑制する ○デマンドデータ等の有効活用 (電力需要等のグラフ化・見える化⇒リアルタイムな情報共有⇒職員の取組意識を向上)	
<p>○ノー残業デー（定時退庁日）の徹底、夏季休暇の取得励行 ○ピークカットチャレンジの取組（最大電力抑制の社会実験への参加 7月30日（水）～8月1日（金）） ○サマーエコスタイルの推進（取組期間：5/1～10/31） ○コンピュータ室やサーバー室における機器の性能保持ができる範囲内の冷房設定温度の見直し ○省エネシールの活用 ○職場内での省エネアイデア提案・実践、一人1節電（一人ひとりが自分でできる節電を最低一つ決めて実行など） ○所管する施設や主催するイベントなどを「信州クールシェアスポット・イベント」として登録する</p>			

※ 経済産業省「夏季の節電メニュー」等を基に長野県が作成。

※ 各々の建物の利用状況や設備内容によって効果は異なる場合があります。

## 夏季の電力需要の特徴について

需要全体としては、特に日中(13:00-16:00頃)に最大ピークとなる傾向にあり、特にこの時間帯の節電が重要となります。



## 熱中症にご注意下さい

屋内でも熱中症にかかる場合があります。  
適切な室温管理や水分補給に留意頂く等、十分にご注意ください。  
特に、ご高齢の方や体調に不安のある方はお気をつけください。

熱中症に関する情報

[http://www.env.go.jp/chemi/heat\\_stroke/index.html](http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/index.html)